

令和5年度「臨床推論演習Ⅱの授業」を紹介します。

看護学科3年生を対象に臨床判断・臨床推論力を高めることを目的に臨床推論演習Ⅱを行いました。本演習は、在宅看護学Ⅱおよび老年看護学Ⅱや発達段階別看護論実習と連動して授業構成しています。演習では、学生が実習で体験した場面を振り返り、臨床判断に至るまでの思考プロセスについて探究しました。「浮腫のケア」「脱水予防」「頸髄損傷者の低血圧の改善」「認知症患者の排便困難時のケア」「誤嚥性肺炎患者の口腔ケア」「COPD患者の呼吸困難へのケア」「終末期がん患者の痛みのケア」等、15場面を検討しました。学生は、学生間での意見交換に教員の助言を含めて事例に関して多角的に考え、介入方法を考えることにつながることができていました。

(看護学科 担当教員：片山・吉本・岡田・竹内・平井・駒井)



事例についてグループワークしている様子



全体発表により他グループの推論内容を学びます



発表の様子